

平成 21 年 5 月 20 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2005 年度～2008 年度

課題番号：17520124

研究課題名（和文） 寺社縁起形成を視点とした慈円法楽百首群についての基礎的研究

研究課題名（英文） A Basic Study of Jien's One Hundred Poems of Buddhist Enjoyment, mainly in reference to the Formation of several Shrines Traditional Histories

研究代表者

石川 一（ISHIKAWA HAJIME）

県立広島大学・人間文化学部・教授

研究者番号：80193283

研究成果の概要：慈円の和歌作品の中で特異な性格を持つ諸法楽百首群を中心として、その歌題についての基礎的考察を行った上で、それぞれの寺社縁起に関する和歌の分析および法楽歌全体に関する和歌表現の解明を進めてきた。その結果、寺社縁起という目標には遠く及ばないものの、法華要文百首（石清水法楽）の詠歌方法や、法楽歌の「基底」となる思想・世界観などを解明し、その社会背景や歴史認識などの考察に辿り着くことが出来た。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2005 年度	1,300,000	0	1,300,000
2006 年度	700,000	0	700,000
2007 年度	700,000	210,000	910,000
2008 年度	600,000	180,000	780,000
年度			
総計	3,300,000	390,000	3,690,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：拾玉集、法楽百首、日吉、伊勢、賀茂、北野、石清水、四天王寺

1. 研究開始当初の背景

(1) 慈円における詠歌時期（初学・実験・習熟・自省）のうち自省期に詠まれた諸法楽百首群は、春日・北野・賀茂・四天王寺・石清水・日吉・伊勢などの諸寺社に奉納を目的とする作品で、各百首の序・跋文に詠作者慈円の法楽意図が表明されており、その解明には承久の乱前後の政治状況を含んだ総合的考察が必要とされていた。また、内容的にも白氏文集や法華経廿八品から選出された歌題についての基礎的考察、寺社縁起に関する資料整理、さらに法楽歌全体の和歌表現につ

いての検討など、多くの課題が残されていた。

(2) テキスト本文についても、これらの諸法楽百首群には『拾玉集』諸本間に異同があり、かつ形態を異にする個別伝本が存在するなど、構成・組織などにも問題を抱えていた。

(3) 研究推進者は叡山文庫天海蔵の総合調査に長年月従事し、『叡山文庫天海蔵識語集成』（叡山文庫調査会編、私家版、2000）の刊行に携わるなど経験を積んできているので、特に寺社縁起に関する資料整理に焦点を絞つ

ての内容分析に取り組む態勢が整っていた。

(4)研究推進者は早稲田大学に提出した学位論文「慈円の和歌についての研究」に対して、平成9年度科学研究費(研究成果公開促進費)(申請番号:91108)を得て、『慈円和歌論考』(笠間書院、平成10年に公刊している。それによって、従来の慈円研究には無かった実証的解析が可能となっていた。

2. 研究の目的

(1)本研究は、新古今歌人慈円における文芸活動を研究するために、その特徴の一つである諸社法楽百首群を中心に作品内容を窺い知ろうとするものであり、平成11年度~14年度科学研究費補助金基盤研究(C)(2)「慈円法楽歌群の総合的研究」(課題番号:11610448)で達成できなかった各伝本形成の状況や法楽意図と寺社縁起との関係など基礎的領域について補完するものである。

(2)『拾玉集』青蓮院本のテキスト本文整定作業は科学研究費(課題番号:05610359)の導入によって完了しているため、形態を異にする個別伝本を視野に入れて、詠歌内容の分析・検討という次の研究段階に進めることができる。そこで、寺社縁起に関する資料整理に焦点を絞って、詠歌内容の分析・検討に取り組み、寺社縁起の形成過程を俯瞰できるよう、体系的に考究することにしたい。

(3)諸社法楽百首群の中には、四季題百首(伊勢法楽)における家隆・定家、文集百首(北野法楽)における定家・寂身などのように、新古今歌人との競作が見られ、当該作品の歌題についての基礎的考察などは周辺歌人の作品研究にも充分役立つことが予想できる。また、諸社法楽百首群がどのような背景で企画・立案されたかという問題については、企画者としての慈円の意識を探る必要が出てくるであろうし、寺社縁起との関連についても調査・解析することが求められよう。

(4)慈円の詠歌作品の分析は、同時代歌人に及ぼす影響という点においても、寺社縁起の形成問題を考察するという点においても、意義あるものである。研究推進者もその一員として参加した、平成14年度国文学研究資料館共同研究「経典解釈としての慈円・尊円の法華和歌集」では、フランス高等研究院教授ジャン・ノエル・ロベール氏を中心として、法華経廿八品の詠歌内容についての討議が為されたが、日本文学と仏教との関係につい

ての関心はもはや海外の研究者にも拡大の様相を呈している。その成果は“La Centurie du Lotus, Poems de Jien(1155-1225) sur le Sutra du Lotus”(College de France Institut des Hautes Etudes Japonaises, 2008)という慈円「法華要文百首」訳注となって公刊されている。したがって、研究推進者に課せられた使命は、伝本の精査によって寺社縁起の形成過程の解明に迫るべく、慈円作品の分析・検討を進めることにある。

3. 研究の方法

(1)平成17年度:難波百首(四天王寺法楽)・四季題百首(伊勢法楽)を中心として調査・収集にあたる。

慈円の諸社法楽百首群には形態を異にする個別伝本の他に、『拾玉集』各系統本に収録されたものが数多く存在している。その調査・収集は遺漏の無いように心掛けなければならない。ただし、これらの法楽百首群のうち、文集百首(北野法楽)・法華要文百首(石清水法楽)に関しては精選過程の考察が大略完了している。

研究の遂行にあたっては、関係諸機関に所蔵されている伝本を調査した上で、写真撮影あるいは紙焼写真を申請・許可いただく。写真頒布が許可されない場合は異同の有無を筆記する。

これらの調査・収集を踏まえ、各伝本を対校するなど、内容検討の基礎的作業を徹底させる。

(2)平成18年度:春日百首・春日百首草、賀茂百首を中心として調査にあたる。

遺漏の無いように調査・収集作業を行うと共に、随時データの追加作業を行う。対校などの基礎的作業を徹底させ、全容把握に努める。

(3)平成18年度:日吉百首・四季題百首(伊勢法楽)を中心として調査にあたる。

遺漏の無いように調査・収集作業を行うと共に、随時データの追加作業を行う。対校などの基礎的作業を徹底させ、全容把握に努める。

(4)平成20年度:文集百首(北野法楽)・法華要文百首(石清水法楽)を補完した上で、諸社法楽百首群全体についての諸作業を完了し、報告書を作成する。

4. 研究成果

(1)伊勢関係資料:「天照坐伊勢二所皇太神宮御鎮座次第記」(国文研・盛岡公民2種・芸大図・東大本居・上田図藤廬・刈谷図村上2種・名古屋鶴舞図・名大皇學館2種・蓬左文庫・三手今井似閑・三手泉亭・山口県図・松平公益会・鎌田共済郷博・多和文庫・愛媛大鈴鹿2種・東大宗教5種など)

(2)石清水八幡関係資料:「石清水八幡宮縁起」(名大皇學館・歴博高松宮2種・大橋政勝など)

(3)四天王寺関係資料:「聖徳太子伝暦」(書陵部2種・刈谷図村上・大須文庫・長谷寺豊山・遊行寺など)、「上宮太子菩薩伝」(書陵部・彰考館文庫・多和文庫など)、「先代旧辞本記」(神宮文庫など)、「四天王寺御手印縁起」(書陵部2種・大須文庫・多和文庫2種など)

(4)日吉関係資料:「日吉山王利生記(正・続)日吉山王記」(東大宗教2種・書陵部2種など)、「耀天記」(書陵部など)

(5)春日関係資料:「春日社神宝記」(彰考館文庫など)

(6)北野関係資料:「北野天神縁起、北野天神御記」(彰考館文庫・書陵部・金沢図藤本・名古屋鶴舞図2種・九大支子文庫・蓬左文庫など)

以上、これらの資料を扱う研究論文の一覧を作成した。

(7)諸社法楽百首群の底流に横たわる慈円の政道観・世界観の解明に取り組み、増減劫に基づく四劫説、百王思想と末法意識、真俗二諦(二諦一如)、二神約諾、狂言綺語観、本地垂迹説を俯瞰することが出来た。

(8)諸社法楽百首群の前提として、九條家に内在する「家」意識を解明すべく、任子(兼実女)入内による「皇子御産」という悲願に懸ける動向を、「南北百番歌合」の成立という時期に照準を定めて、考究した。

(9)日吉七社奉納のための「慈鎮和尚自歌合」の内容を精査すべく、その校注の作成に努めた。これに関連して、家集『拾玉集』の校注作業にも従事し、百首集成である第三帖までを上巻として公刊出来た。また、「私家集大成」のCD化に伴い、拾玉集・無名和歌集の解題の修正を施し、これも公刊出来た。

(10)諸社法楽百首群の作者慈円の法楽意図などを考察の対象とすることで、王朝から中世という画期における慈円の歴史意識や社会背景、それから派生する諸問題について考究した。

(11)諸伝本の調査を行った上で、寺社縁起の形成過程を解明すべく、予定の研究方法にしたがってその基礎的作業に全力を挙げた。特に法華要文百首の詠歌方法の解明については明確な結論を得ることが出来た。しかし、寺社縁起の形成過程の解明という壮大な目標には程遠く、他の法楽百首については寺社縁起を詠み込んだ歌の初歩的な分析に留まった感がある。

以上、その到達し得なかった目標に関しては、引き続き課題として掲げ、永続的に探求精査して行きたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 7件)

石川一、慈円諸社法楽百首群の「基底」愚管抄・自筆願文・拾玉集などの整理を中心に、県立広島大学人間文化学部紀要2号、p239~250、2005、査読無

石川一、九條家の仏事についての考察『南北百番歌合』の再検討を照準として、広島女子大國文24号、p1~20、2005、査読無

石川一、校注『慈鎮和尚自歌合』稿()、県立広島大学人間文化学部紀要3号、p218~244、2006、査読無

石川一、La Composition Poétique et la Posie Bouddhique chez Jien、EPHE Annuaire 2005-2006 Tome114、p109~113、2006、査読無

石川一、校注『慈鎮和尚自歌合』稿()、県立広島大学人間文化学部紀要4号、p214~240、2009、査読無

石川一、『南北百番歌合』跋を読む、日本文学2009・2月号、p74~77、2009、査読無

石川一、歴史認識と「派生」、中世文学54号、p1~13、2009、査読無

[学会発表](計 2件)

石川一、『南北百番歌合』についての考察 南都の動向を通して、広島女子大

国文学会、2007、県立広島大学
石川一、歴史と「派生」、中世文学会大
会シンポジウム「画期としての中世文
学」、2008、國學院大学

〔図書〕(計 2件)

石川一、汲古書院、『大東急記念文庫善本
叢刊(和歌)』、2008、法華経廿八品歌
(鎌倉写、伝慈鎮筆)解題、p32~35
石川一・山本一、明治書院、『拾玉集(上
巻)』、和歌文学大系 59 巻、p1~542

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

取得状況(計 件)

〔その他〕

石川一、エムワイ企画、『私家集大成』
CD-ROM、2008、拾玉集・無名和歌集

6. 研究組織

(1)研究代表者

石川 一 (ISHIKAWA HAJIME)
県立広島大学・人間文化学部・教授
研究者番号：80193283

(2)研究分担者

(3)連携研究者